第十三章

品性——眞正の紳士

常に働き得んものは誰ぞや、
人にまさりて温雅なりきと、
記憶するものにあらずして誰ぞ。
彼は其心、花の如く自ら育ちて、
世に處するや周圍に高雅の氣を放ちたり。
かくして紳士と稱する
古き而も美はしき名を得たり。

テニスン

才幹は靜寂の中に養はれ、
品性は人間鑄型の中に養はる。

ゲーテ

一國を高むるもの、一國を強むるもの、一國に權威を附するもの、——國の力を擴ぐるもの、國の道德的勢力を迅るもの、他國の尊敬服從を得しむるもの、百萬人の心を屈するもの、他國の自負を破りて我に頭を下けしむるもの、——服從を造る器械、優越の源泉、一國の眞の王位、王冠、王權、——此貴族政治は、門閥の貴族政治

にあらず、上流階級の貴族政治にあらず、單に才幹の貴族政治にあらず、是れ實に品性の貴族政治なり。此品性こそ實に人の眞正の紋章なり。

タイムスの論文

品性は人間の最貴なる所有物なり

人生の榮冠、光榮は品性なり。是れ人の所有の最貴なるもの、自身の中に爵位を有し、善意に於ける財產たり。人の社會に於ける各地位、各境遇を高む。品性は力を及ぼすこと富よりも大にして、嫉妬せらるゝことなくして、凡ての名譽を獲るを得。品性は、常に一勢力を伴ひ、此勢力は必ず功を成す。蓋し品性は名節、正直堅實の試練せられたる結果なり——此三性能は、人の尊敬、信任を得ること他に勝るならん。

品性は人間性質の最善なる形なり。道德的秩序の個人に實現せられたるものなり。品性の人は、單に社會の良心たるのみならず、良き國家に於ては、最上の原能力者たり。何となれば、世界を支配するものゝ大部は道德的性能なればなり。ナポレオンは言ひぬ、戰爭に於てすら物的の力は一にして、道德的の力は十なりと。國民の力、勤勉、文明等、皆個人の品性に據る。政治的安穩の眞根據も、亦實に品性の上にあり。法律や制度は、只品性の結果のみ。由來萬事は

平衡を保つもの、個人、國民、人種は、皆其價に於て相應ず、即ち個人全體の値と、國民の値と、人種の値とは、互に相照應して必ず同一なり。凡そ原因あれば結果あり、故に人民間に於ける品性は、直ちに之に相應する結果を生ず。

縱ひ人修養少なく、才能小にして、且富を有せずとも、其品性にして立派なる値を有しなば、工場にあるも、會計所にあるも、市場にあるも、元老院にあるも、必ず勢力を得。カンニングは、千八百一年に賢くも記しぬ『我が道は品性を通じて勢力に至るものならざるべからず。余は決して他の道を歩まんとせず。余は確かに信ず、此道は最捷徑にはあらずとも、最確實なることを』と。諸君は智力優れし人を賞するならん、然れども、智力の士を信ずる前に、智力以外に尙ほ必要なるものあるを知るべし。故にジョン・ラッセル卿は、眞理に富める一文に於て次の如く言ひぬ『天才者の補助を請へども、品性高き士の指導に從ふこと、是れ英國黨派の特性なり』と。此事は故フランシス・ホーナーの生涯に於て、遺憾なく例證せらる。シドニー・スミスは、彼を以て十誡(譯者註、舊約聖書にある所謂モーゼの十誡なり)が其容貌に印章せられ居る人とせり。コ

フランシス・ホーナーの品性

ックバーン卿は言ひぬ『ホーナーの傳記が心正しき青年を鼓舞する貴き特點は次のことなり。彼は三十八歳にして死したり、私人として彼の如き社會的勢力を有せしものなく、心なきもの卑きものゝ外は、萬人に褒められ、愛せられ、信ぜられ、哀悼せられたり。議會に於て死せし議員に尊敬を拂ひしこと、彼に對する如く大なりしはなし。(譯者註、彼は代議士として死せしなり)。今青年をして「如何にして彼が斯の如きに達せしか」と問はしめよ。門閥に依りてか、彼はエディンバラの商人の子なり。富財に依りてか、彼も彼の親戚も未だ曾て餘剩六片(ペンス)をも有せしことなし。官職に依りてか、彼は唯一度それも僅に二三年間、無勢力の一官職を占めしのみ、而も其俸給や極めて僅少なりき。才幹に依りてか、彼は才華煥發の人にあらず、又天才にあらず、愼重にして遲鈍其唯一の野心は、誠直ならんとのことなり。雄辯に依りてか、彼は靜穩、善良の辯を揮ひしのみ、人耳を聳動するに足る雄辯を有せず。其擧動の人を牽くものあるに依るか、彼の擧動や唯端正にして嫻雅なりしのみ。然らば何に依りてかくの如きを得しか。單に善良により、勤勉により、善き主義により、善き心情

に依れり、——是等の性能や、正しき心志の人の有し得る所のものなり。彼を舉げしものは、彼が品性の力なり。而して此品性たるや、天性として之を有するにあらず、其別に優等にもあらざる材料(彼が資質)より造り上げしものなり。下院には彼より才能辯舌の遙に勝りたる者數多あり、然れども、才能や辯舌の適當なる部分に道德的價値を結びつけし點に於ては、一人として彼を超ゆるものなし。昔通凡庸の力に唯修養と善良とを加ふるのみにて(此力を公生涯の紛爭猜疑の中に揮ふ時にても)如何に大を成し得るかを證明せんとして生れし者實にフランシス・ホーナーなり。

フランクリン

フランクリンも亦其公人としての成功の原因を、其才幹、辯舌に歸せずして(彼が才幹辯舌ともに平凡なりき)其誠直なる品性に歸せり。彼は言ひぬ『余が市民に重んぜられしものは、自己の正直に依る。余は訥辯家なり、決して快辯を有せず、語の選擇に迷ひ易く、言語の用ひ方正しからず、然れども、一般に要點だけは傳へたり』と。品性は、高貴の人にも、卑賤の人にも信用を造る。露國のアレキサンダー第一世は、其品性、一の憲法と價値を等しうすと云はれた

り。プロンドの戰亂の間、貴族の中其門を鎖さざりしものモンテーン一人なりしと云ふ。人は言へり、モンテーンの品性は、一聯隊の騎兵よりも彼の爲めには尙ほ良き保護なりと。

品性は力なり

品性は力なり。「知識は力なり」と謂ふよりは、尙數層高き意味にて力なり。情趣なき心意、行爲なき頭智善良なき怜悧は、力は力なりと雖も、唯悖戾をなすための力たらゝのみ。吾人は是等の力に敎へられ欣ばせらるゝことはあらん、然れども、之を賞讃せんことは時としては拘兒の熟練を賞揚し、草賊の乘馬振りを賞揚するが如く困難ならん

品性の高き性能

眞實、純直、善良は、——これ口先だけのことにあらず、男性的品性の精髓なり。又は我古昔の一文士の言ひし如く『生來德行に對して忠義を盡くし、食祿を得ずして能く仕ふるもの』なり

是等の性能に堅志を併せて有する人は、冒すべからざる力を持つ。かゝる人は、善を爲すに強く惡に抗するに強く、困難災害の中に忍耐するに強しコロンナのスティブン(譯者註、十二世紀英國アングロノルマン統の末王)墮劣

なる敵の手に落つるや、敵輕蔑して問うて曰く『今何處に汝の墨ありや』と。『此處にこそ』と彼は其心臟の上に手をあてゝ、敢然として答へたり。誠直なる人の品性が最大の光輝を發するは困難の時に於てなり。他の人皆失墜するも、彼は其誠直と勇氣との上に堅く立つ。

エルスキン卿の行爲の規則

エルスキン卿自説を固守して一歩も抂げず、眞理に從ふことの細心勤勉なるを以て著し。彼が守る行爲の規則は、青年の心に印刻せらるべき價あり。彼は言ひぬ『常に良心が職分なりと告ぐる所を爲し、其結果を神に任すこと、是れ余が早年時代最初の命令且忠言なりき。余は此親の教訓を墓に至るまで記憶し且實行せん。余は今日まで此規則に從ひたり。余はこれに從ひしことが此世の犧牲を起せりと呟くの理由を見ざりき。否、之に反し、此規則に從ふことは繁盛と富裕とに至る道なりき。余は子供等に彼等の志望を追ふために、同一の路を指示せん』と。

人生の高き標準必要なり

何人も、人生最高目的の一として『善き品性の獲得』を目指すべき責務あり。良き方法にて之を獲んとする努力は、人に奮勵の動機を與ふ。而して彼が人

生觀の擧がるに比例して、其動機は活力と堅實とを增す。高き人生觀を抱くは、縱ひ之を實現する能はずとも、誠に善きことなり。ヂスレイリー氏言へり『上を仰がざる青年は下を俯せん、飛翔せざる精神は匍伏すべき運命に會せん』と。ジョージ・ハーバート(譯者註、十七世紀英の詩人賢明の言をなしぬ、

汝の容姿を低く止め、汝の志望を高く保て、
然らば汝は謙遜にして大度たらん。
精神を虛降せしむる勿れ、大空をねらふものは
樹をねらふものより高く射つ。

高潔なる生活、高潔なる思想をなすものは、然らざる者に比して勝る所幾何ぞ。蘇格蘭の諺に『黃金の衣を掣け、さらば其袖を獲るならん』と。最高の成果を得んとて勉むる者は、最初の出發點より遙に隔たりたる地點に進む。而して縱ひ目的點には達せずとも、進まんとの努力其ものは、常に利益を與ふ

品質

世に品性の價物多し、然れども純粹なる品性は誤解せらるゝことなし。中には品性が物質的の利益を與ふるを知りて、不注意者を欺瞞せんため、高貴の品性を裝ふものあり。大佐チャーテリス、有名なる正直者に告げしことあ

り、曰く『余は御身の美名を買はんためには一千磅を與ふべし』と。彼の者『何故に』と問ひしに、答へて曰く『余は其美名に依りて一萬磅を獲るを得』と。

言行の誠直は品性の脊骨なり。誠直に從ひて動かざること、是れ品性の最も著しき特徴なればなり。サー・ロバート・ピールの死せし後數日を經て、ウェリントンは、上院にて此大政治家ピールについて次の言をなせり。これピールが品性の最美なる證言の一なり彼は言ひぬ『滿場の貴顯諸君は、故サー・ロバート・ピールの高貴なる品性を感ぜざるべからず。余は公生涯に於て長らく彼と相關係せり。吾等二人は共に樞密顧問官たり、又余は長く彼と私交をなすの名譽を有したり。余は彼の眞實、正義を信じ、彼が國事を進めんとする不斷の希願を知れり。余彼と交はる長しと雖も、此眞實と此希願に於ては何人にも劣ることなかりき。又余今日に至るまで、未だ一回も彼が確かなる事實と信ぜざることを述べしを見ざりき』と。かくの如き高志眞實こそ疑ひもなく彼が大勢力を得し秘訣なれ

ワエリントン、ピールの品性を論ず

行動にも言語にも眞實あらば、此眞實は純正なる品性の中心となる。人は

君が見えざる如くあれ

彼の人より見ゆる所、又己の願ふ所のものならざるべからず。即ち外見も希求も實際も一致せざるべからず。米國の一紳士グランヴィル・シャープの美德を尊敬するの念より、其子をグランヴィル・シャープと名づけ、此事をシャープの許に書き送りたり。シャープの返書に曰く『御身は御子息に我が家の名を與へ給ひしなれば、序に我が家族の愛する格言を御子息に敎へ給はんことこそ望ましけれ。――曰く「常に外見に見えんと願ふ所のものにて實際あれ」と。余の父は語りぬ「此格言は、我が父(余の祖父)の注意して眞面目に實行せし所なり。父は質朴正直の人にして、其純朴は斯くして、私生涯に於て、公生涯に於て、彼が品性の主點となれり」と。父の語りし所誠に此の如し』と。自己を重んじ、又他人を重んずることを貴ぶ人は、此格言を實行するを得ん。即ち高き品性を各行爲の中に注入し、一事として之を輕卒に行ふことなく、純正を守り、良心に從ひて行動すクロムウエル曾てベルナードと呼ぶ怜悧なれども、愼重を缺く法律家に謂ひしことあり『余は御身が近時大に行動に愼重を加へ來りしを認むれども之を信じ過ぐる勿れ、怜悧は御身を欺くことあらん、

行爲の純潔正直

されど純直は決して然らず』と。行爲と言語と正反對なる人は、一の尊敬をも得ず、其言ふ所毫も重味なし。眞理と雖も、かゝる輩の發言する所たらば、其口を出づる時既に枯凋す。

眞の品性は、人の見る所にても、見ざる所にても、正しく行動す。見る人もなきに何故梨子を取らざりしか、と問はれしとき、次の如く答へし少年あり。此少年の如きは訓練宜きを得しものと謂ふべし。曰く『然り、余はかしこにありき。然れども、余は己を忘れず、自己が不正を爲すを見んと志すことなし』と。主義或は良心は、品性を支配し、高貴に之を保護し啻に受動的勢力のみにあらずして、人生其ものを統御する起動的勢力たり。前の少年の話の如き、此事の實證として、簡單なれども不適當ならず。かくの如き主義は、日々刻々品性を淘冶しつゝ進み、絶えず働きて其力は次第に成長す。此支配力なくしては、品性は一の保障を有せずして、常に誘惑に陷り易し。而して誘惑に陷る毎に卑陋不正の行爲(如何に小なりとも)をなす毎に、自己の低落生ず。其不正行爲の成功不成功に關せず、發覺せられしと否とに關せず、之を敢てせし人は、既に

習慣の重要

前の彼にあらず、彼は心中の不安に逐はれ、我と我を叱責し、又良心に責めらる。是れ惡行爲をなせしものゝ免るべからざる運命なり。

是に於て、吾人は記すべし、習慣を養ふことが、如何に品性を強固にし、支持することの大なるかを。言あり、曰く人は習慣の塊なり、而して習慣は第二の天性なりと。メタスタシオは、行爲、言語に於ける反復の力に關し強き意見を有せり。彼は言へり『人類に於ては万事が習慣なり、德行すら然り』と。バットラーは、其著『アナロジー』にて、注意深き自己訓練と誘惑に對する堅き抵抗の重要なるとを記しぬ。此二は德行を習慣的となす傾あるを以て、遂には罪に陷るよりも善をなす方容易なるに至ると。彼曰く『肉體に關する習慣が、外的行爲に依りて生ずると等しく、心の習慣は心内の實際目的の實行に依りて生ず、即ち此目的を行爲にあらはし、又此目的に據りて行動することに依りて生ず。而して内心の目的とは、天命に從ふの心、眞實の心、公正の心、慈悲の心なり』と。又ブルーハム卿は、青年に於ける訓練及び實例の大重要を說いて曰く『余は神の下に万事を習慣に任す。古往今來、立法家も教育者も、主として習慣

習慣は品性を造る

に依頼せり。習慣は萬事を容易にし、既に之に馴れては、之を離るゝこと難きものなり』と。故に禁酒を習慣とせよ、さらば飲酒は自ら厭はしくならん。謹慎を習慣とせよ、さらば、不注意なる邪行は、個人の生活を統御する「行爲の規則」と相容れずならん。されば吾人は惡習慣の侵入に對して大なる注意と警戒とを要するなり。蓋し一度或事に於て誘惑に負くるときは、品性は其點に於て最も弱くなるなり。而して之を恢復して、再び動かざるやう確くするには、長き時日を要す。露西亞の一文士、いみじくも言ひぬ『習慣は眞珠の頸飾の如し、節を解け、さらば全部が糸を失ひて壞るべし』と。

習慣一たび形造らるゝや、其動くこと無意識にして努力を要せず。只此習慣を破りて行はんとする時、諸君は如何に其強くなりしかを知る。一度爲し二度爲しゝ、事は直ちに容易と快捷とを與ふ。習慣は、最初は蜘蛛の巣以上の力を有せずと思はる。然れども、一度固まりては鐵鎖を以て我を縛するが如し。人生の小事は、之を只一つ取りては甚だ輕微に見えん、恰も一片一片霏々として降る雪の如し、然れども其堆積するや、雪片は遂に雪崩となる

青年に於ける習慣の發達

自重、自助、專心、勤勉、純直等、凡て是れ習慣の性質を有す、信仰の性質を有せず。主義とは吾人が習慣に與ふる名たるのみ。何となれば、主義は言語なり、習慣は實事なり。習慣は善なれば恩人なり、惡なれば虐王なり。かくして吾人生長するや、吾人の自由行動と個性の一部、習慣にかゝるに至り、吾人の行動は運命の性質を持ち、自ら己の周圍に織りし鎖にて縛せらる。

されば、青年を訓練して有德の習慣に馴れしむること、此上なく重要なり。青年に於ては習慣の形造らるゝこと甚だ容易なり。而して一たび造らるゝや、一生相續き、恰も樹皮に彫りし文字の如く、年と共に發育生長す。『小兒を訓練して、其往くべき道を往かしめよ、彼長ずるも此道より離れざるべし』。『始め』は其中に『終り』をも有す。人生最初の出發は、旅路の方向と終點とを定む。コリングウッド卿、其愛する青年に謂ひぬ『御身廿五歳にならぬ中に、一生涯御身を支配すべき品性を造らざるべからず』と。習慣は齡と共に固まり、品性は齡と共に確立するを以て、之を離れて新路に就かんことは、益々困難となる。されば、一度習慣となりては、學ぶ方學ばざるよりも容易となる。學ばざるは辛

きことゝなる。かくの如きを以て希臘の吹笛者が己に劣れる教師より學びたる生徒には、二倍の授業料を課せしこと不當にあらず。古き習慣を根拔きにするは、齒を捩り拔くよりも尙ほ辛く尙ほ大に難し。怠惰、不謹愼、飲酒が習慣となれる人を改心せしめんと試みよ。大多數の場合に於て失敗すべし。是れ病既に膏肓に入りたるもの、此惡習慣は深く其人の生活に喰ひ入りて、缺くべからざる一部となりしが如く、之を根絶する能はざるに至りしなり。リンチ氏の語に曰く『善習慣の形成に注意する習慣は最賢なる習慣なり』と。

幸福と雖も之を習慣的となすを得。物の光明面を觀る風あり、物の暗黑面を觀る風あり。物の最良面を觀る習慣は、人にとりて一年一千磅の收入よりも價ありと。是れ博士ジョンソンの說なり。吾人は、幸福、改善等を惹き起す物にのみ心を注ぎて、之に反するものを避くるやう、我が意志を働かす力を有す。常にかくの如くなすときは、常に歡喜の情を有する習慣自ら生ぜん。其樣他の凡ての習慣の反復に依りて自ら生ずると異なるなし。男女を養育して快活の性、善良なる氣質、幸福歡喜の心を有せしむるは、其智識を大にし、學術

藝能を增さしむるよりは、多くの場合に於て更に重要なり。

日光は極めて小なる孔をも通じて明かに顯はるゝと等しく、小事は以て能く人の品性を表はすべし。誠や品性は小行爲を良く正しく爲す中に存す。日々の生活は、品性と稱する石を堀り出す石坑なり。此堀りたる石を斫りて良き石となすは、恰も習慣が相積みて良品性を生むが如し。吾人が他人に對する振舞は、最も著しき『品性の試驗』なり。目上の者に對し、目下の者に對し、同等の者に對する振舞の溫雅なるは、不斷の歡喜の源泉なり。かく行ふものは、他人の人格を尊重するを示して、他人を喜ばす。而して己は之に十倍する欣喜を感ず。人は萬事に於て自修自得するを得。善美なる振舞に於ても又多く、は同樣なり。人其財布に一錢をも有せずとも、自ら努めなば、溫雅となり深切となるを得べし。人に接して溫雅なるは、光線の靜かなる勢力の如し。即ち万事に色彩を與ふ。溫雅は聲を大にし、勢を熾んにすることよりも力强く効多し。三春の候、かの極めて小なる水仙を見ずや、優(やさし)く靜に成長するのみにして、能く土を上げて之を排す。溫雅は誠に水仙の如し、靜に然れども不屈不撓に

其道を推し進む。

ブライトンのロバートソンの語

優しき目つきも人を欣ばし樂します。ブライトンのロバートソンの書簡に次の如くあり、曰く『余日曜日に教會より出で來る時、偶〻一貧女、見を見やさしき眼を之に注ぎしことあり。然るに一婦人余に語りて曰く、此時かの貧兒は欣喜して感謝の涙を流したりと。如何に良き教訓ぞや。如何に容易く歡喜を人に與へ得るを如何に吾等は天使の如き深切の事をなす機會を失ふぞや。かの時や、余は彼貧兒を見て心傷みて慈愛の眼を注きたりされどこれ一瞬時のことのみ、直ちに去りて、再ひ之を思はざりき而も是れ人の生命に一時の暖光を送り一時人の心に人生の行路を示したり』と。

舉動及ひ德行

人生に色彩を與ふる德行と舉動とは、律法よりも遙に重要なり律法は只德行と舉動との表顯たるのみ律法は彼處に此處に吾人に觸るされど舉動は常に我等と共にあり。吾人の呼吸する空氣の如く社會全般に普及せり。所謂良風習は良行爲と相如き、丁寧と深切とより成り立つ慈愛は人間界百般の利あり快ある交渉に於て、最も重き要素なりマンテーグ夫人言ひぬ『溫雅

は無代價なり、而も何物をも購ひ得』と。百物の中最も廉價にて求めらるゝ深切心なり。之を行ふには煩勞犧牲を要すること極めて少し。バーレイ、エリザベス女王に謂ひぬ『人の心を獲よ、さらは陛下は萬人の心と財寶とを獲ん』と。吾人若し僞飾と人工とより離れ、天性をして深切に働かしめば、其社會の快調と幸福とに及ぼす効果は測り知るべからざらん。人生の小變化をなす敬禮の行爲は、其自身にては寔に價少しと見えん然れども之を反復し集積せば、其重要を增し來る。敬禮の行爲は、些細なる時間の如く、一日數錢を貯ふるか如し。十二ヶ月を經過し、或は一生の終りとならば、其結果〻大や一通りにあらざるなり。

深切及ひ

舉動は行爲の裝飾なり、而して等しく深切の語を發し、深切の事をなすにも、其價を大に增すやうなる遣方あり。嫉妬の情を以て爲し、卑屈心を以て爲せしことは忍愛とは受け取り難し。世には己の粗暴刻薄を詑りとするものあり、かゝる人は德行を有し才能を有するとも、其舉動の惡しきため、德行をも才能をも保ち支ふる能はざるなり一人あり、此者絕えず諸君の自重心を

傷け、諸君の不快とすることを語りて得々たりとせよ、諸君は此人を好むこと能はざるべし。世には甚だしく他人を見下す人あり、己をえらく人に見せんために、極小なる機會をも失はじと力む。アバーネシイ、聖パーソロミュー病院の醫官たらんと望み居りし時、一日病院管理人の一人なる富裕なる一雜貨商を訪づれたり。此雜貨商は、帳臺の後にありて彼の入り來るを見、直ちに彼を以て己の幇助を求めに來りしものと推しければ、忽ち傲然として之に對せり。而して口を開いて曰く『思ふに貴下は一身上の重大事に關して余の幇助を乞はんとて來りしなるべし』と。アバーネシイは欺瞞を惡むの人、かの雜貨商の調子に不快を感じ、答へて曰く『否とよ余は貴下の幇助を求めず。余は一片の無花果を要するなり。來れ、能く看て之を包め、余は直ちに去らんとす』と。

アバーネシーの逸話

眞正の鄭重

學動の修練は、度を超ゆれば虛飾愚呆となる。然れども、由來學動の修練は、人生の實務に於て他人と交渉する人に取りては大に必要なり。溫雅禮容は、高き地位と廣き活動範圍とに於ける成功に缺くべからず。これが缺乏は生

々にして多大なる勤勉誠直、純正の成果を鈍くす。勿論世には也人の學動の缺處稜角を意とせずして其善美の性質をのみ見る我慢強き人もあり。然れども、世界一般はかく我慢心強からず、主として人の外形的行動を標準として判斷好惡をなす。

他人の所說を尊敬することも、鄭重をあらはす一方式なりかの獨斷說なるものは、自矜の增長したるものと云はるる而して自矜の發して行爲となるや、其最惡の形は『我說に固執すること』及び驕慢なり。人々をして同意せしめよ、反せざらしめよ、而して其說相異ならば、之を忍べよ、主張所說を保つには全き溫雅を以てすべし。我は怒りて對手を撲ち、或は激語に出づる勿れ。時としては言語が打撲と異なるなく否却ッて打撲よりも甚だしき暗し推き疵を彼らすことあり。此點に關して、吾人は敎訓的なる一比喩を引用せん是れ威爾士(ウエールス)の國境なる宗敎同盟合の一月道偽道師の語りし所なり。彼言ひぬ『余或雪多き朝早く、丘陵地に向ひて進みつゝありし際、一丘の側面に怪しき一物の動くを見たり其形甚だ奇異なりければ、余は必定これ怪物ならんと想

大心胆は富貴高位の人に限られず

像したり。然るに近寄り見れば、思ひきや是れ人なりき、而して更に近つき見れば、何ぞ計らん瓦怪物は即ち我が幸なりき』と

正直なる心情及ひ深切なる感情より生ずる天性の鄭重は、決して一部の階級、一部の地位に限れるものにあらず。椅子を造る工人も、宗教家、貴公子と同様これを有するを得粗野鄙雑なること、これ決して労働の必要條件にあらず歐洲人陸の諸國に於て鄭重禮容が人民の各階級を通ずるを以て見れば、吾人また是等の性能を我物となし得へきを知る。而して之を爲すに他の優れたる性能を犠牲に供する必要なく而して其結果は疑ひもなく一般の教養を増し社交を寛にせん上下貴賤貧富等人生の如何なる階級如何なる境遇に對しても天は其最高なる賜物――大なる心情――を惜むことなし。大心情を有せずして眞正の紳士たりしものは一人もなしこれ農夫も貴人と等しくあらはし得る所なり。ロバート・バーンスエディンバラの一青年貴紳と同行せる時、往來にて正直なる一農夫に目を留めしに、同行の貴紳は之を咎めたり。バーンス叫んで曰く『嗚、君は愚物なるよ、余の語りしものは大なる

ウォリアム・グラント及ひチャールス・グランツー及ひエートリーフチャールス・グランツー兄弟

上衣にあらず、婦人帽にあらず、是等の中に包まるゝ人其ものを云ふ。徇に彼人や其眞價に於て優に君をも余をも壓するこ足る而して將來は今に十倍する價値の人ともならん』と。外見の粗野なるは内心を見る能はざる愚眼者流には賤しとも見えん、外れども、心正しき人には、品性は明かに外面にあらはるゝものなり。

ウォリアム・グラント及びチャールス・グラントは、インヴァーネス州の一農家の子なり。父なる人は、洪水に遇ひて全財産を失ひ其耕し居りし地すら流れ去りぬ。此人と二人の子と一、只前途に渺茫たる世界を有するのみ、而して身には一物なし、また何の爲すあらんや。然れとも三人は心を決し、職を求めん爲め飄然として南方に逍遥ひ、遂にランカ州ベリー附近に到着したり。オームスレイに近き小山の頂上に立ちて、彼等は芒方に横はる廣漠なる土地を眺めぬアーエル河に谷を通じて蜿蜒として流るゝなり。彼等は全く見ず知らずの土地に來り、何れに向ひて進むへきを知らざるなり。近路を定めん爲め杖を地に立てゝ、其倒れかる方面に進まんと決定し、かくして彼等は

方向を定めて進行せしが、遠からずしてラムスボーザム村に達したり。

彼等は印刷所に働き口を得、ウヰリアムは此處に社弟となり、三人共に勤勉と眞面目と誠直とを以て雇主に忠勤を稽したりたり。彼等は情進して次第に地位を高め、遂に二人は自ら雇主となり、多年の勤勞企畫忘善の結果として富裕となり、知る者皆之を崇めぬ。彼等の紡績工場と印刷所とは、多數の人に職を與へたり。彼等の正しき勤勉は、此發地に活動、歡喜、健康、饒裕を充たしぬ。彼等は其富財を割いて有益の事業に貢献しぬ。教會を建て、學校を設け、其他種々の方法にて、勞働階級の幸福を增すことを努めぬ。彼等は自ら勞働階級より出でしを以て、特に其れがために盡くしたるなり。後彼等はオームスレイに近き彼の小山の頂に高塔を築きたり。是れ彼等が曩に流浪せる時、此處にて其定住の場所を定めたるを記念する爲めなり。

グラント兄弟は、其慈善と善行とを以て名聲遠近に普及せり。傳ふる者曰く、チッケンス氏(譯者註、十九世紀、有名なる英の小說家)が、其小說にチエーリブル兄弟の性格を描くときグラント兄弟のことを心中に置きたりと。彼等

の性格が決して過賞せられしにあらざることを示さんため、吾人は次の一話を語らん。此種の逸話は他にも數多くあり。マンチェスターの一毛織物問屋、グラントを喇り呼びてビリー・バノーンと云へり。ウヰリアムに此小冊子の性質を告ぐるものありしに、ウヰリアム曰く、かの者いつか之を悔ゆる時あらんと誹謗者はウヰリアムの言を聞くや叫んで曰ひぬ『オヽ彼は余がいつか彼より借金すると思へるなり。されば余は大に注意せん』と。されども、實業の士、何人が己の貸主となるかを豫見すること能はず。まことや其後グラントを誹謗せし商人は破產の運命に遇ひ、人々の押印なくては證書を完くする能はず。實業を再興する能はざるに至りぬ。グラント兄弟の組合に向ッて請助を乞ふは殆ど無効なるべく見えぬ。されども、一家を挽ッて、產の厄運に會せし彼は、迫り來る缺乏の爲めに、今依然ノ如く屈ひ出でたりかくの如くにして彼は其會てビリー・バノトンと稱して喇罵したる人の面前にあらはれぬ。彼は一部始終を語りて證書を差し出したりグラント氏は曰ひぬ『思ふ、君

は曾て一冊子を作りて吾等を誹謗せし人ならずや』と。かの商人は、其證書が忽ち火中に投ぜらるゝならんと期せり。然るに之に反して、グラントは組合の名を記して捺印し、かくして證書を完全にしやりたり。グラントは證書を彼に渡しながら謂ひぬ『正直なる商人の證書に捺印するを拒まざること、是れ吾等の常規とする所なり。而して余は御身が正直なる商人たるを聞くも、未だ其然らざるを聞かず』と。商人の眼よりは涙湧きぬ。グラント氏尚ほ語を次いで曰ふ『それよ、余曾て御身が必ずかの小冊子を書きしことを悔ゆる時あるべきを述べしが、御身今や余の言の眞なるを知り給ひしや。余かの言をなせしや威迫としてにあらず――他日御身能く我等を知るに至らば、吾等を傷けんとせしを悔ゆるならんとの意を表せしなり』と。商人答ふ『まことに今は我かの事を悔いたり』と。『よし、御身は今や吾等を能く知れり。然れども御身は今如何に暮らし給ふぞ、――何を爲さんと志し給ふぞ』。商人答ふるに證書を獲たるときは、己を助けんとする友人ある由を以てす。『されど、現在如何にして日々を過ごし居るぞ』。商人は貸主に一厘も殘さず渡して、今は證書に對し

眞正の紳士

て拂ひ得んため家族の糊口にすら差支ふる有樣なりと答ふ。『好漢よ、こは甚だ可ならず。御身の妻、御身の家族は、かく苦むべきにあらず。此十磅の紙幣を持ち行きて御身の妻に渡し給へ。此處より、此處より、今直ちに、――悲む勿れ、萬事好望なり、勇氣を奮ひ起し、男兒の如く起て、御身尚ほ吾等の中の最優者の間に頭をもたぐるを得ん。』頭を垂れ居たる彼商人は、咽び入る語にて感謝の意を表せんと努めたり。然れども聲を發する能はざりき。彼は手を顏にあてゝ、小兒の如く歔欷しつゝ室を出てたりき。

眞正なる紳士とは、其性質が最高標本に徵ひて造られたる人を云ふ。紳士とは陳腐にして而も壯大なる名なり。如何なる社會に於ても、位階とし力として認めらる。老熟せる佛の一將軍が、ルーシロンなる彼の聯隊(蘇格蘭の良家の子より成る)に謂ひし言に曰く『紳士は常に紳士なり』と。紳士的品性を有することは、それだけにて權威にして、貴き心を有する人々の自らなる崇敬を得。名のみの高位には頭を下げざる人も眞の紳士には崇敬を表す。彼の性能は習慣や風俗に據るにあらずして、道義的價値に據る、――人間の財産に

振らずして、人間の善美なる性能に拠る舊約聖書の詩賦作者は、紳士なるものを簡潔に形容して曰く『正しく歩み、正義を行ひ心に眞理を語る者』と。

紳士の特徴は、眞自重にあり。彼は己の品性を証徴するに、他人に如何に見ゆるかに依りてせず自ら之を見るに依りてし、自己心中の勸奬者の賞讃如何を顧みる。彼は自己を尊重し、又同一の法則にて他人を尊重す。人道は彼の眼には神聖なるものに見ゆ、而して温容と忍耐と深切と慈悲とは此處より生ず。傳へて曰く、エドワード・フィノチケラルド卿、土人(インディアンス)と共に加拿陀を旅行せし時、一貧女、土人夫の外套を肩に搭ひて喘ぎ〳〵歩むを見て、直ちに之を我が肩に載せて婦人の労苦を救ひやりたりと是れ眞正なる紳士の生來の禮容なり

エドワード・フィツヂラルド卿

眞正の紳士は名節に對して鋭敏なる感情を有し細心注意して卑劣の行動を避く彼が言行に關する忠實の標準は甚だ高し。彼は口先にて胡麻かさず、曲言せず、又言ひ逃れをなさず。正直純正直なり。彼の法律は正義なり。——正しき場所に於ける行動なり彼一歩(イエス)然り」と言へばそは法則なり、而して必

名節・忠信・誠直

要の場合には敢然として「否」を叫ぶ眞の紳士は賄賂を取ることなし、雷低想無主義のものゝみ買收者に其身を賣り渡すなり。かの正直なるショナス・ハンウエーが糧食部の委員たりしや愛白人よりの一切の贈物を拒斥し以て公務に於て偏頗なきを得たりウエリントンの生涯に於ても、之に等しき特徴を見るべしアノセイの役後幾許も經さる時、ハイテルバッー宮廷の總理大臣某或朝彼を訪ひて、密に彼よりマーラノタ公とニサムとの間の平和條約に於て、己の君主の得べき領地と利益の如何を聞き出さんとせり此目的の為めに、彼のナーはウエーンに出でゝ十日を超ゆるを待てせんとす。サー・アーサー・ウエリントンは、數秒間靜かに宰相を視つめし後、言を發しぬ、曰く『然らば、貴下は秘密を保ち得らるゝと見ゆ』と宰相は答へぬ『然り確かに』大將軍は微笑を含みて言ひぬ『然らば、余も亦然り』と而して一揖して宰相を送り出したり。ウエリントン、印度に於ては常に成功し、右の如くにせは多大の富を遺り得しなるにも拘はらず、彼は其財を一錢も増さずして、清貧依然として歸國したり

紳士は賄賂を取らず

ハンウエー・ウエリントン・ウエスレレイ及ひサー・ナ・シアーの逸事

財布に於て貧なる

ウエリントンの兄ウエレスレイ侯爵(譯者註、印度大守たり)亦弟と等しく、頴敏なる良心と高潔なる心事とを有するを以て著し。彼は曾てミソアーに勝利を獲し時、東印度商會の支配人より贈り來りし十萬磅を拒絶したり。彼は曰ひぬ『余が獨立心と職務の權威とは言はずもがな、此等重要なる考の外なる多くの理由、余に不適當なる此褒美を拒絶せしめぬ。余は我軍隊の外何物をも思はず。余は我勇敢なる兵卒の費を節せんことは、いたく悲む所なり』と。彼が贈物を拒絶せんとの決心は、決して疑はることなかりき

サー・チャールス・ナピアー、印度指揮官たりし間、また高貴なる克己を表はしぬ。彼は土人の王侯等が献ぜんとせし高價の贈物を、すべて斥けたり。彼が次の如く述べしは誠なり、『余シンドに來りし以來、心あらば確かに三萬磅を獲るを得しならん、然れども余は悪錢を受けしことなし。吾手や未だ洗ふを要せざるなり。余がミーニイ及びハイデラバッドの役に佩びたる懐かしき亡父の劍は、未だ汚れざるなり』と。

富財、位階は、純正なる紳士的性能と何等必然の關係なし。貧者も、精神に於

精神に依りて富むを得

て日々の生活に於て眞の紳士となるを得。彼は正直眞實、實直、恭敬なるを得べく、節制、勇氣、自重、自助を有するを得べし。――即ち一言にして盡くせば、眞正の紳士たるを得べし。精神富める貧者は、精神貧しき富者に勝ること萬々なり。使徒パウロの言を以てせば、前者は一物をも持たず、而も萬物を有する『ものなり。然るに後者は萬物を有すれども、一物をも有せざるものなり。精神の貧しきものこそ眞の貧者なれ、己の所有物を總て失ひし者にても、勇氣と快活と希望と德操と自重とを保たば、尚ほ富めりと謂ふべしかゝる人の精神は俗世混濁の中に處する配慮を指導し、眞正の紳士として正道を踏み行くを得しむ。

高貴なる農夫

賤しき衣を纏ふものにして、勇者たり紳士たること往々にしてこれあり。余は今一の古き逸事を語らん、古しと雖も善き話なり昔アタイヂ河の突如としし氾濫せしことあり。ヴェロナの橋洗ひ去られて、只中央の橋臺を殘すのみ、而して此橋臺の上には番人の家立てり。家人は窓より手を擧げて頻りに救援を求めつゝあり、而も家屋を支ふる橋臺は秒一秒分一分破壞せらる。群

衆の中にスポルヴェリナ伯爵あり、叫んで曰く『危きを冒してかの不幸なる人々を救はんものあらば、百金の佛國貨幣を與へん』と。若き農夫あり、群衆より出で來り、短艇をあやつりて濁流の中に出でぬ。彼は橋臺に達し全家族を短艇に乘せ、岸に向つて漕ぎ戻り、危事に堤に達しぬ。伯爵金を出して曰く『此處に御身の金あり』と青年は答へぬ『否とよ、余は汝が命を賣るものにあらず、此金は此憐れなる家族に與へよ。彼等は之を要するならん』と彼や身に賤しき農夫の衣を纏へども、中に包む神士の眞情神は、此偉大なる語を發するなり。

デイール舟子の勇敢

近頃の事なるが(一千八百六十六年、一月十一日)ディール舟子の一隊が、ダウンスにて一石炭運送船の乘組員を救ひしことあり。其勇敢の行爲や、また吾人を驚かすに足る。東北方より急に吹き來りし暴風は、五六の碇泊せる船を流せしが、時恰も退潮に際せしかは、中一隻は海岸を距ること程遠き所にて暗礁に乘り上げ、海は此上に明かなる割目を造れり。暴風怒濤は相呼應して猛烈を極め、船を救はんと望みは毫もなし。船或は乘組員を救はんために命を

的に賭くるやう、陸上の水夫を誘ふものとてさ一もなし。即ち一隻の賞金をも豫期する能はざるなり然れども、ディール舟子の大膽勇敢は、此危急の際に缺乏せざりき。かの帆船の暗礁に觸るゝや否や、海岸に立てる人の中より、ンモン・ブリトチャードなる者躍り出て、上衣を脱き棄て叫ぶらく『余と共に來りて彼の船員を救はんものは誰ぞ』と聲に應じて躍り出てしもの廿人、皆曰く『我行かん』『我も行かん』とされとも必要の人數は七人のみ彼等は相爭ひて舟に躍り入り、陸上より喝采の聲に送られて巨浪の中に突進しぬ一葉の輕舟が、如何にしてかの如き怒濤洪波の中に處して沈まざりしか、これ實に奇跡なり。兎に角俠勇なる水夫の健腕に押されて、舟は舞ふが如くに走りて難破船に達し、『波の頭にて之を抛へ』ぬ短艇が岸を出でしより未だ十五分ならずして、運送船の乘組員六人は、無事にワルマーの海岸に立ちぬ。ディール舟子は、常に勇敢なるを以て聞えたりと雖も、其不屈の豪氣と、無私の俠勇をあらはすもの、之に勝る例はあらじ。吾人は今茲に之を記して、愉快の情禁ずる能はざるなり。

ターンバル氏は、墺地利に關する著述に於て、故フランシス帝の逸事を語りぬ。これ此國の政府が人民統治の上に於て其王侯に負ふ所大なるを證するものなり。文に曰く『維也納にて虎烈刺病の猖獗を極めし時、帝は一傳令士官を携へて市中及び近郊を漫歩せり。時に偶々一擔架、死人を載せて來りしか、一人の會葬者の從ふものなし。餘りに不思議なれば之に尋ねしに、死人は虎烈刺にて死せし貧人にして、當時虎烈刺の死者に從ひて墓に至るは危險なりとせられしかば、親戚は之に從ふことを避けしなりと云ふ。フランシス帝は曰ひぬ「さらば、吾等親戚の代理をなさん。余の人民たとひ貧なりとも、一人も會葬者なくして(即ち尊敬の最後の印なくして)墓に葬らるゝことあるべからず」と。かくして帝は遠き埋葬所まで隨ひ行き、帽子を脱して鄭重に儀式を行ひたり』と。

右は紳士の性質に關する美はしき逸話なるが、數年前、一朝刊新聞に記されし巴里の英國勞働者の逸話も、亦之に劣らざるものなり。記して曰く『或日一柩車白楊の棺に冷き死骸を入れて、モントマーターに到るへくルー・デ・クリチーの嶮路を登れり一人の從ふものなし。――死者の飼犬すら若し飼犬ありしとせば之に從はざるなり。此日は雨勝ちにして陰鬱なりき。通行人は帽子を脱して過きりぬ。是れ葬式の列に會する時の常習なり、而してこれのみなりき。途に柩車は二人の英國勞働者に會しぬ。彼等は西班牙より家に歸る途上、巴里に立ち寄りしなり。正しき感情は、彼等のセルのジャケノ服の下より物言ひぬ。一人他に向ひて曰く『憐れなる人よ、一人も從ふものなし、いざ我等之に從はん』と。かくして二人は脱帽して見ず知らぬ人の死骸に從ひてモントマーターまで歩みたり。

紳士は、眞實を以て其最大特徴となす。彼は眞理を以て『萬物の最高點となし、人事に於ける誠直の精神となす。チエスターフィールド卿曰く『眞理は紳士の成功をなす』と。ウエリントン公、半島戰爭にてケラーマン(譯者註佛の大將軍)と相對せしが、捕虜口約の問題に關して、ケラーマンに送りし書に於て、彼は『英國の士官が他より誇り得べきものは、勇氣を除きては、眞實なること』を語りぬ。彼曰く『英國の士官が、一度「逃れず」との口約をなさは、必ず之を破ら

ざるものと確信せよ。諺ふ彼等の言を信ぜよ。一英國士官の一言は、番兵の監視よりも尙ほ確かなる保證なり』と。

眞の勇氣と眞の溫厚紳士らしきことと、とは、手を携へて進む。勇者は寬厚にして我慢强く、刻薄殘忍なること決して之なし。サー・ジョン・フランクリンに關して、其友ペリィの語る所を聞け、曰く『彼は決して危難を逃れざるの人、而も其優しさは、一匹の蚊をも拂ひ去らざる程なり』と。西班牙エル・ポーデンの戰爭に一佛國士官のあらはれたる事實は、眞に紳士にして而士の精神に適へりと謂ふべし。此佛國士官は、劍をあげてサー・フェルトン・ハーヴェーを擊たんとせしが、敵手の一腕を失ひ居るを見て、直ちに之を止め、サー・フェルトンの前に劍を卸して肯通の挨拶をなし、飄乎として騎し去りぬ。尙ほ半島戰爭中に於けるネイ(譯者註、佛の將軍)の高貴なる行爲を語らん。チャールス・ナピアーコランナにて重傷を負ひて佛軍に捕虜となり、本國にある彼の友人も、彼の生死如何を知らざりき。ナピアーの生死を確めんため英國は一巡洋艦に特使を載せて行かしめたり。クルエット男爵此任に當り、先

づネイに到着を知らせたり。ネイ曰ふらく『捕虜ナピアー氏をして友人に會せしめ、其健康にして善く待遇せらるゝことを告げしめよ』とクルエットは躊躇しぬ。ネイは微笑みながら問ひぬ『尙ほ他に要する所ありや』と。『彼は寡婦にして盲目なる老母を有す。』『母ありとな、然らば、彼をして自ら往いて其生ける由を母に語らしめよ』。當時捕虜交換のこと未だ許されざりしかば、ネイは『獨斷にてナピアーを放免せば、必ずナポレオン皇帝の不興を買はん』と豫期せるも之を意とせずして斷行せしなり。然れどもナポレオンは、ネイの寬大なる行爲を賞讃せしと云ふ。

騎士の風既に地を拂ひて去れりと嘆ずる聲は吾人の屢々聞く所なるが吾人は現代にも史上他に劣らざる勇敢溫雅――即ち勇ましき克己男らしき仁恕――の行爲を見るものなり。最近數年間の出來事は、我英國民の尙ほ退歩せざる國民なることを證せりセヴァスポールの荒涼たる高原に於て譯者註、クリミヤ戰爭について云ふ十二ヶ月間敵を圍み、濕氣多く病を起す沼地の中にありて、國人は貴賤貧富の別なく、皆祖先の傳へたる品性の貴

印度に於ける紳士

き遺産を承け繼ぐ値あるを示せり然れども、我國人の性能が最も明かに表はれしは、印度に於ける大患難の際にありネールがコーンポアーへの進軍、ハーヴェロックがラックナウへの進軍、――此時士官も兵卒も婦人や小兒を救はんとの望にて進擊せしなり――は、騎士時代の全歷史も比肩し能はざる事なり。アウトフムが下級なるハーヴェロックにラックナウ進擊軍の指揮を讓りしことの如きは、世にも貴き行動と稱すべし、官なり、アウトラムを、人呼んで『印度のベーヤール』『譯者曰ベーヤールは十五世紀、佛の模範的騎士なりと稱するや、ンリー・ローレンスの死の如き、彼れ勇敢溫雅の人、其死際の語に曰く、余について一の騷擾あらしむる勿れ、余を吾兩の人と共に葬れ』と）サー・コリン・カムベルがラックナウの被包圍者を救はんとし、夜密かに婦人小兒の一隊を導きて、此處よりコーンポアーに至りし吾心敵の強壓の中を通じて此處に達し得しなり途中危き橋を通りて導き、彼等貴き武護送物）を無事にアラハバッドの公道に至らしめし忠慮、而して後直ちに迅雷耳を掩ふの遑なくしてグワリアー人を攻擊せしが如き、――かゝることは、我國

アウトフム、ヘンリー・ローレンス

クライド卿

人について論るを得しめ、騎士の最初最上の光輝未だ死せずして、盛に吾人の中に生くるを成ぜしむ。

アカラの戰

一兵卒と雖も、此患難の下にありて、己の紳士たることを表はせりアグラに於ては、敵と會して負傷せしもの甚だ多かりしか、之を集に運びて婦人の優しき看護を受くるや、小兒の如く溫柔なりき婦人か傷病者を世話せし數週間の中に、軍人の中、一人として些の敵語を發せしものなかりき、而して萬事終局せし時、――即ち重傷者は死し、生き殘りし病者や不具者は、其感謝をあらはし得るに至りし時、――彼等は看護婦及びアグラの重もなる市民をタヂの花園に招待して、此處に百花と奏樂との間に、粗朴なる兵者は、一人として傷を有し、不具ならざるはなくして、患難困苦の間に衣を着せ食を與へ、萬事の世話を爲しくれたる溫雅なる同國の女性に對して感謝の意を表せり。スカタリの各病院に於ても、多數傷病者は、看護の任に當れる深切なる英國婦人を祝福しぬ。病苦のため眠る能はざる憐れなる傷病者が、夜の看護のため枕元に坐するフロレンス・ナイチンゲール『譯者註、クリミヤ戰爭に於て

傷病者を看護せし有名の婦人なり、彼女は今の赤十字社の開祖なりの影を祝福せんとは、こよなく美しき想にあらずや。

バーケンヘッド號の難破

千八百五十二年二月廿七日、亞弗利加の海岸にてバーケンヘッド號の難破せし話は、十九世紀に於て活動せる平民の騎士的精神の例證として記憶すべきものなり。船は四百七十二人の男子と百六十六人の婦人小兒とを載せて、亞弗利加の海岸に沿うて進みつゝありき。男子は當時喜望峰に駐屯せし數聯隊に屬する軍人にして、其大部は除隊になりしばかりの兵卒なり。午前二時、皆船室に眠れり。船は突然暗礁に觸れ、傾は船底に突入せり。其沈沒すべきは明かなり、大鼓鳴り、兵は武裝して皆上甲板にあらはれ恰も練兵場に於けるが如く整列したり。婦人小兒を救ふべしとの衆議は、一同の一致する所となりぬ。婦人小兒は下より寢衣のまゝ連れ來られ、いと靜粛に短艇(ボート)に移されたり短艇が船側を離るゝや否や、船長は不注意にも叫んで曰く『泳き得るものは、すべて海に投じて短艇に取りつけ』と。第九十一聯隊に屬するハイランド人ライト大尉、之を聽きて高く叫びぬ『否とよ、諸君若し然せば婦人を

載せたる短艇は只沈沒せんのみ』と。豪氣なる兵は動かずして立ちたり。一隻の短艇も殘り居らず、全も救助の望なし。然れとも、一人も心沮喪するものなく、大事の場合に其職分より逃るゝものなし。生存者ノイト大尉は語りぬ『船が全く沈沒するまで、一の怨聲なく、一の叫號なかりき』と。船は遂に沈み行きぬ。而して勇敢なる一團は、万歳を叫びつゝ遂に波間に入りぬ。此紳士此勇者に光榮と名譽とあれ。かゝる人の實例は決して死せず、其記憶と共に不朽なり

紳士なるか如何を判ずる標準多き中にも、決して隔たざるもの一あり——即ち彼が其從ふ者に對する振舞如何と云ふことなり。彼が婦人小兒に對する行動如何、士官の部下の兵に對する、主人が僕婢に對する、教師が生徒に對する等、凡そ社會各地位の人々が己より弱き者に對する行動如何、凡そかかる場合に下に對するに、自由、思忍、深切を以てするは、紳士的品性の證左とすべし。ラ・モート(譯者曰、十九世紀、獨の詩人且小說家)一日群衆の中を過きりし時、知らずして一青年の足を踏みたるに、青年怒りて忽ち、ラ・モートの顏を

腕力の用ひ方は紳士の試驗なり

打ちぬラ・モート青年に向ひて曰く『御身、余の盲目なるを知らば、今爲し給ひしことを悔ゆるならん』と。抵抗すべからざる者、即ち上位者を凌ぐは、潛上者にして紳士と稱すべからず。弱き者、力なき者を虐ぐるは、卑怯者にして眞の人にあらず。言あり曰く、虐王は奴隷の裏返へしされたるものゝみと。心正しき人、強健にして且之を自覺せば、其品性に高貴を添ふ。然れども、彼は此強健を用ふる方法には最も注意せざるべからずそよ。

巨人の力を持つは苦きことなり、
さりながら、巨人の如く之を用ふるは難きなり。

溫雅は、紳士的性質の最良試驗なり。他人の感情を尊敬し、劣者に對し、從者に對し、同等の者に對して尊敬を表し、彼等の自重を尊敬することは、眞正の紳士の全行動を貫通す。彼は他人の行動に對し、無慈悲の制裁を加へて、大不正を敢く危險にあらんよりは、寧ろ自ら小損害を忍はんとす。彼は己より不利の地にある者の薄弱、失錯、過失を喜んで之を忍ばんと欲す。彼は其飼犬にすら慈悲深からんと欲す。彼は其富其力其才を誇らず。彼は成功に依りて驕

慢とならず、失敗に依りて沮喪せず。彼は自說を他人に强いずされとも時ありては則ち其心を披瀝す。彼は恩を着せるが如くにして人の爲めに爲さず。サー・オーター・スコット、曾てロシアン卿について語りぬ『彼よりは何人も恩惠を受け得べし而してこれ近時大に有効ならん』と

チャタム卿（譯者註、有名なるウォリアム・ピットのことなり、英の大宰相たり）は言ひぬ、己を犧牲に供すること、人生日々の出來事に於て己より他を推薦すること、是れ眞紳士の特性なりとかく思慮深きは高貴なる人格の中心精神なるか。吾人は此實例として、かの勇なるサー・ラルフ・アバークロンビイ（譯者註十八世紀英の將軍）の逸事を語らん。傳へて曰く、彼アボウカーの戰に重傷を受け、擔架に載せられて、フ　ソドロヤント號に運はる。其苦痛を減せんため、一軍人の毛布彼の頭下に置かれ、彼は之か爲めに大に快く感じたり。彼問ふに其何物なるかを以てす。答ふる者曰く、これは軍人の毛布に候。『卒は其身をもたげて彼は問ひぬ『何人の毛布そや』『たゝ一兵卒のものに候』『余は此毛布の持主の名を知らんことを欲す』『サー・ラルフよ、是れ四十二獅隊

サー・ラルフ・アバークロンビー

ノーの記せしサー・フランシス・ドレークの品性

のダンカン・ローイの物に候』まことに、彼は其瀕死の苦を弱げんためにも、一夜一兵士より毛布を取らんことを決しとせざりしなり。これ將に死せんとするシドニーが、ズートフェンの戰場にて一兵卒に水筒を與せしと好一對の美談と謂ふべし。

老フローは、かの大水師提督サー・フランシス・ドレークの品性を記せしが、是れ眞正の紳士、活動的人物の特性を數言に總括せしものなり。曰く『其生涯純直、其行動公正、其言語信義あり。部下に對して慈悲あり、怠惰を惡むこと尤も甚しく、一大事の時には他人の盡力に信頼(他人の力がいかに信ずべく、如何に熟練に見ゆるとも)せず、常に危難を意とせず、辛苦を避けず勇氣、熟練、勤勉を用ひ得べき各機會には己先づ第一に第二者の何物なるに關せず、身を擲んずるを常とす』と。

自助論 終

『自助論』の後に記す

余が『自助論』の譯述を始めしより、今之を完了するに至るまで、實に十一ケ月を要したり。淺識無能なる余にも、幸に精力の衰ふるなくして、細字四百四十二頁の原文を譯了し得したること、余の感謝と歡喜とに堪へざる所なり。筆を措いて顧みれば、益々「セルフ、ヘルプ」の偉大なる書物なる所以を知り、而してこれが譯文の甚だ拙劣不完全なるを歎ぜざるを得ず。「セルフ・ヘルプ」は、世界的書籍なり、歐米の各國、概ねこれが譯書を有し、各〻其國の精神的倉庫を飾れり。これが譯文の如きは出來るだけ完全ならざるべからず。余の文の如きは、蕪雜にして不備、豈深く耻ぢ且羞づべきにあらずや。余は他日時を得て之を訂正し、稍〻現在に勝るものたらんことを望めり。卷末に臨んで讀者諸君に告白する所右の如し。

明治三十九年十一月譯述結了の夜

譯者識す

明治三十九年二月一日全四編合本發行
明治三十九年二月十五日第三編發行
明治三十九年二月十五日第二編發行
明治三十九年四月廿一日第一編發行
明治三十九年六月十五日上卷發行
明治三十九年十二月二十日中卷發行
明治三十九年十二月二十七日下卷發行
明治三十九年十一月二十四日上卷發行
明治三十九年十一月二十五日續編發行

第三版

不許複製

著作者　畔上賢造

發行者　山縣操
東京市本郷區駒込西片町拾番地

印刷者　青木弘
同市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

印刷所　株式會社秀英舍第一工場
同市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

自助論合本
定價　金壹圓五拾錢

發行所　東京市本郷區駒込西片町十番地
電話下谷二千四百五十三番
振替貯金口座番號第三五五

內外出版協會

博士 スマイルス原著
文學士 竹村 修譯述

品性論

全三冊完成
美裝合本
定價金壹圓廿錢
小包郵稅金拾錢

CHARACTER

SMILES

『日本人』評　人生の常道と人間社會に處する大道を說きて穩健にして着實、且つ躬行實踐し易し。譯文平易にして流暢、節々句々人をして自ら襟を正さしむ。

『大阪朝日新聞』評　歷史言行錄及び著者が實地に見聞せし所に材を取り、廣汎なる意義に於て品性を解說す、品性の陶冶を重んずる人士の好讀本と云ふべし。

『教育時論』評　吾等は方今拜金的成功を說けるもの〻世に歡迎せらるゝを以て健全なる風潮に非ずとなすもの、本書の如きは青年座右の規箴として缺くべからざるものなりと信ず。

『中央新聞』評　古今の事實を擧げ諄々として品性は人の最も高尙なる使命にして、社會の良心を形づくるもの、又社會の最大原動力となるべきものたることを切論したり。戰後の國民教育に精神の修養を急務とする今日此書の我國民の德性を涵養し、道念を堅實ならしむるの功、蓋し鮮少ならざるべきを信ず。

版元　東京本郷駒込西片町十番地（振替貯金口座番號五五三五）　內外出版協會

博士スマイルス原著　文學士 若月保治　文學士 栗原元吉　譯述

職分論

全四冊　スロック製金文字入　美裝合本　定價金壹圓五拾錢　小包料金拾錢

『教育界』評　本書はスマイルス氏の著「デューティ」を飜譯せられたるものである。スマイルス氏の所說が、常に常識に富み世故に通じ、高遠に過ぎず卑俗に失せざる穩健着實の教訓であることは「西洋品行論」「西國立志編」等を讀んだ我國民の知悉して居る所である。この書亦人として義務職分の忽にすべからざる所以を說き、勞働の腐敗商業の不正を懲らし、虛僞を戒め、怠惰を叱咤する所など頗る痛快を極めて居る、斯る眞面目な書物が今日に出版せられたといふことは、大に之を祝さねばならぬ。

『教育學術界』評　スマイルス氏の德望は吾人が我が國實踐道德の母として敬慕せらるゝ所なり。その『西國立志編』『品性論』等が如何に青年子弟の德道的觀念を豐富にし規正したるかを思へ、而して今やまた氏の著『職分論』譯述せられぬ。吾人はこれによりて義務職分の觀念が明かにせられ、位地と境遇と時處とを問はず、必ず自己の義務職分に忠實なるべきことが敎訓せられ、日夕の躬行實踐によりて、一路向上の境に到達せんことを望むと共に、譯者の心事を多とするものなり。本書の如きは我が現時の教育家及び青年に一讀を薦めてやまざるなり。

『教育實驗界』評　本書は先頃物故せる有名なるサミュエル、スマイルス氏の『デューティ』を譯述したものである、行文流暢にして解し易し、將にこれ一讀すべきの書であると思ふ。嗚呼アングロサクソン人種の紳士的品性と世界の山川原野、到る處皆これ彼等が成功の地にあらざるはないと云ふアングロ魂のできた其功の一半は慥かにスマイルス氏に期せざるを得まいと思ふ。

人は自分の職分を知つて初めて勇者たることができ眞摯なる人たることができ社會は初めて新になり眞の文明、眞の進步ができるのである吾人は此書の大に我が同胞に迎へられんことを望む

版元　東京本郷駒込西片町十番地　內外出版協會

二版

著原 博士 スマイルス
譯 文學士 竹村 覺
述 文學士 保月 治

勤儉論

全三冊合本洋裝美本定價金壹圓貳拾錢郵稅拾錢

大阪時事新報評

英國のスマイルス氏の原著を飜譯したるものなり。スマイルス氏は中村敬宇氏の飜譯に係る自助論、西洋品行論によりて、多年我國人に其名を知られたる人にして、九十年の天壽を保ちたる其間、德を積み徳を行ひ、指道人心を裨益するを以て己の責任と爲し、少年子弟の爲めに教訓的著作を公にしたること幾回なるを知らざるも、中にも「勤儉論」は「自助論」「職業論」「品性論」と共に、氏の四大著述として最も聲價を博したるものなり。氏の說く所、敢て驚きを人に求めず最も平易にして、行ひ易き方法を以て讀者を指導せんとするに在るは、何人も認むる所にして自らその價値を高からしむる所以なる可し、殊に氏の著述の特色として最も感服す可き點は、事例の豐富なる一事にして、無數の事實を蒐集したるものは他の類似の著述に見ると得ざる所、氏が著作に關する勞苦の大半は思ふに此邊に存することなる可し。近來少年子弟の訓陶に關する書籍の發行は枚擧に遑なきまで其多し。は學識も修養もなき黃吻の徒が、筆に任せて一時の思付を述べ去りたるものに過ぎず、寧ろ讀者をして片腹痛く感ぜしむるもの多き場合、スマイルス氏著作の如き價値あるものゝ譯出せらるゝは喜ぶ可き次第なり、殊に筆致流暢にして難渋ならざるは讀者の滿足する所なる可し。

版元 東京本郷區駒込西片町十番地 內外出版協會

米國文學士 ジョン、ヒー、デン原著 文學士 竹村 修譯述

實業に成功する人生訓

全三冊合本 美裝合本發賣 大五百二十頁 定價金壹圓 郵稅拾錢

著者は、ブッシング、ヒー、ゼ、ヒントンの著者にして、又慈善家ジョンス」の主筆と知られし、當に米國青年の指導者を以て任じ、向上發展の主義を唱道し、堅忍奮勵の活動的生活を鼓吹すること所謂健にして實際的、世間商道にして健全なり。本書は實業に就かんとする青年の爲めに、紛糾錯綜せる人生諸種の問題を分釋し、處世の要訣を說き、青年は常に一本を卓上に備へべき書なり。[illegible]は文學士竹村修氏、向年出版せられ當時歐米の若金なる書籍に注目し、文筆に秀でる士に之を勸して我が讀者界に輸入しつゝあるこの書は正しく[illegible]べき所とす。……大阪毎日新聞

有名なる米國成功者の中なるマーデン氏の原著にして、[illegible]青年が如何に[illegible]すべきかを說き、[illegible]困難に[illegible]最も必要なる[illegible]決し、其大なる[illegible]も心も實業家たらんとする青年[illegible]、[illegible]人に活動主義の[illegible]として一般青年[illegible]『[illegible]』[illegible]者として青年界に知れ渡れる[illegible]氏の教[illegible]說く所、[illegible]微細に青年の心機を指導し、[illegible]人生[illegible]致へたるもの、譯文も流暢[illegible]實業に志す[illegible]年の三誦す[illegible]。……國民新聞「[illegible]年の經驗[illegible]入[illegible]、何れも人生必須の箴言にして[illegible]世の要訣と[illegible]ふべく、尙能[illegible]切の[illegible]に以て現日本の青年を訓[illegible]成すべしと原著[illegible]れ米國青年の指導者たるマーデン氏の著述より、氏が常に唱へる所の[illegible]主義は又本書に現はれて[illegible]人を利する所多大なり……大阪朝日新聞

版元 東京本郷區駒込西片町十番地 內外出版協會

吉川潤二郎譯述

人生の行路

正編 全四冊　クロス表紙 美人綴　定價 地方 金一圓廿錢　小包 一圓十錢　美裝合本

●通卷五百七十頁、悉く金玉の文字

我等は民族の生活の外に出つる能はざる水夫を學ぶこと勿れ、宜しく波濤を冒して一路たる大海に乘出し、未だ見さりし新世界を發見するのみ。たゞ其地獄者とするべし。而して「困難」と題ひて得たる成功は、必ずしも富貴と名譽にあらざることを記憶せよ。人と己れの最良なる事を爲し、之を完うすれば、即ち成功なり。されば、等しく其目的に向つて働くを可とす境遇の種々なる變化の間に起るべき、之を顧みずして可なり。

《少年時代の行路》

共に辛酸苦を嘗めし、「困難」を共にし、快樂を共にし而かも互に年老いたる一組の夫婦は、也々其言論外貌に於て男女の差別を認めざるが如きことなしとせず。則ち夫は妻の女性的特質を享け、妻は夫の男性的氣血を[illegible]に、相合して一體となりたるものなれば、縱令化に[illegible]も彼[illegible]が雖せざるべし。

《中年時代の行路》

見玉の眼に映ずる女傑は其母なり。而して漸次成長するに從ひて、男子の一生は、往々にして此なる一婦人の意思によりて、其運命を決することあり。

《女子の本分》

愛[illegible]は[illegible]頂臺上の露と消ゆるも、其主張したる眞理の遂に最後の勝利者たることを確信せよ。偉人の精神は其肉體と共に消滅するものにあらずして、千年萬年の後まで、他人の精神に宿るものなり。

《勇氣》

學校は唯個人に教育を與ふる門戸のみ。如何にして教育すべきか、亦如何なる點にまで達すべきかは、專ら己をして己を教育せざるべからず。而して大なる努力なければ大なる教育の功果なしことと記憶せよ。如何なる天才と雖も、運命に縛つ[illegible]はざることに留意せよ。

《教育の功果》

●人間處世の金科玉條

版元　東京本郷區金[illegible]駒込西片町十番地　三[illegible]二[illegible]
內外出版協會

偉人研究

第三編　ヂヒテル、ルド言行錄　千里介山編　▲新[illegible]　定價金參拾錢　郵稅四錢

米國大統領として稀政治家として稀勤勉誠實なる[illegible]的人[illegible]、政治家として[illegible]ぬく勞働者平民的神[illegible]として唱へられざるべからず。[illegible]者は此見地に立ちて、このノガーフヰールド氏の生涯を敘し言行を錄せ[illegible]氏の一言一行は悉く百人に最良[illegible]を示す其感化力の多大なること又[illegible]へきものあらん

目次

▲丸木小屋時代　▲[illegible]勞働時代　▲工見習時代
▲聖[illegible]人時代　▲[illegible]勞働時代　▲[illegible]學生時代
▲ラム[illegible]時代　▲ウキリアム大學時代　▲ヒルム[illegible]等學校長時代
▲會議員時代　▲代議士時代　▲上院[illegible]時代　▲大統領時代
▲最後の言葉

第一編　リンコーン言行錄　野上豐一郎編　▲第三版　定價金參拾錢　郵稅四錢

第二編　トルストイ言行錄　千里介山編　▲增補再版　定價金參拾錢　郵稅四錢

版元　東京本郷區[illegible]
內外出版協會

THE ROOSEVELT BOOK

BY

THEODORE ROOSEVELT

目次

好市民　勇士　開拓者

亞米利加少年　武勇の眞根柢　開拓者
高尚なる事業の繼承　グランド　邊境の性格
奮鬪的生活　相撲士　ダニエル・ブーン
言語の實行　サンデュアン丘の合戰　狩獵　灰熊　大角羊

米國大統領　ローズヴェルト原著
文學士　篠田繁吉譯述

ローズヴェルト集

新刊　定價金四拾錢　郵稅四錢

此書は正義の感化世界の偉人、米國現大統領ローズヴェルト氏の著作に成る講演を集めたるローズヴェルト・ブックの譯本なり。人格の修養を奬勵し奮鬪的生活を鼓吹す。健全なる教訓と趣味ある說話とは此書を充たせり。譯文は平易にして流暢、興味津々として紙上に横溢す。

版元　東京本郷區駒込西片町十番地　內外出版協會